ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	時任　康文

主な担当科目	指揮法Ⅱ①,指揮法Ⅱ②,実技個人レッスン[指揮]
シラバス	次ページをご参照ください

2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	音楽の専門的な知識を学び身に付け音楽の面白さや難しさを指揮者という立場で共に研究する。そのためには一方的に教えるのではなく学生の立場、環境を考え一人一人状況を見極めることが重要。上手く学生たちの意見を引き出しながら進めていきたいと思う。
2022年の教育に関する自己評価	多様な学生の対応が難しく、人間を育て教えることのハードルの高さに直面。音楽を教える以前にこちら側のスキルを高めもっと柔軟な対応をしなければならないと痛感した。

2022年のFD活動に関する自己評価	専任教員初年度のため、FD活動を理解すること終わってしまった。FD活動を十分理解し目的意識をしっかり持ち次年度は活動の一員として参加できるように努めたい。
授業改善のために取り入れた研修内容	多様な学生は今後も様々な形を変えて増えていくと思う。それに対応できる想像力、対応力はいつも教員側のスキルを磨き研修していかなければならない。

科目名－クラス名

指揮法Ⅱ①

曜日時限

水 2時限

担当教員

時任　康文

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	3～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

指揮をするという行為から音楽を学び、楽譜の理解を深め、幅広い視野を持つ音楽家、素晴らしい音楽指導者の育成を目標とする。
１年目前期は２台のピアノを指揮しながら、ピアノ曲を中心に指揮法の基礎を、後期はオーケストラ曲や吹奏楽曲も含め指揮の実践を研究する。

学修成果

履修者は、音楽を深く理解し、音楽を導く指揮ができるようになる。

授業展開と内容

第1回　履修者の希望や目的を話し合う。指揮法の概要を説明し、基礎を学ぶ。

第2回　平易な曲を使用し指揮法の実践。

第3回　平易な曲の指揮、及び楽譜の読み方。

第4回　シューマンの子供の情景を教材に指揮法の基礎。

第5回　シューマンの子供の情景を指揮し実践する。

第6回　シューマンの子供の情景を指揮しフェルマータ等の処理の方法。

第7回　平易な変拍子のピアノ曲の練習。

第8回　平易な変拍子のピアノ曲の指揮実践。
図形と手の運動を練習する。

第9回　平易な変拍子のピアノ曲の指揮の研究と応用。

第10回　メンデルスゾーンの無言歌を使い8分の6拍子の練習。

第11回　メンデルスゾーンの無言歌を使い8分の6拍子の指揮実践。
図形と手の運動を練習する。

第12回　メンデルスゾーンの無言歌を使い8分の6拍子の指揮応用。

第13回　ハンガリー舞曲第6番を教材に、細かなテンポ変化の技術を学ぶ。

第14回　ハンガリー舞曲第6番を教材に、指揮の実践。

第15回　ハンガリー舞曲第6番を暗譜し指揮の実践、及び応用。

第16回　オルフ作曲のカルミナ・ブラーナを使い、変拍子の練習。
図形と手の運動の練習。

第17回　カルミナ・ブラーナを使い、変拍子の指揮実践。
ヘミオラの練習。

第18回　カルミナ・ブラーナを使い、変拍子の指揮応用。

第19回　ホルストの吹奏楽のための第１組曲と第２組曲を使い指揮法の考察。
ホルストとこの組曲の成り立ちについて研究する。

第20回　ホルストの吹奏楽のための組曲を使い指揮の実践。

第21回　ホルストの吹奏楽のための組曲を使い指揮の実践と応用。

第22回　R.ヴォーン・ウィリアムズのイギリス民謡組曲を使い音楽を導く腕の動かし方の練習。イギリス民謡の原曲の研究。

第23回　イギリス民謡組曲の2楽章を題材にゆっくりしたテンポの腕の運動を習得する。

第24回　イギリス民謡組曲の指揮の実践。
お互いの指揮を見ながらディスカッションする。

第25回　合唱曲『せんせい』のリズム読みと振り方の研究。

第26回　合唱曲『せんせい』の指揮と実践。

第27回　合唱曲『せんせい』の変拍子の練習。

第28回　小編成の吹奏楽曲を使い、実際のアンサンブルで指揮の実践を行なう。

第29回　小編成の吹奏楽曲を使い、実際のアンサンブルで指揮の実践、及び曲の止め方、リハーサルの手順を学ぶ。

第30回	小編成の吹奏楽曲を使い、実際のアンサンブルで指揮の実践と1年のまとめ。今後の課題の研究。

履修上の注意

特に無し。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で課題を指揮することで、各個人の技術の問題点を解明し、その改善方法を提示していく。
その修得には、学生個人が指揮をするための準備や復習が最も重要になる。

教科書・参考書

ピアノ曲、オーケストラ曲、吹奏楽曲などを教材として随時配付する。

科目名－クラス名

指揮法Ⅱ②

曜日時限

金 2時限

担当教員

時任　康文

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	4～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

指揮をするという行為から音楽を学び、楽譜の理解を深め、幅広い視野を持つ音楽家、素晴らしい音楽指導者の育成を目標とする。
２年目前期は２台のピアノを指揮しながら、オーケストラ曲や吹奏楽曲も含め指揮の実践を研究する。
後期はオペラや協奏曲なども取り入れ、小編成のアンサンブルも指揮しながら現場での指揮の実践を学ぶ。

学修成果

履修者は、音楽を深く理解し、音楽を導く指揮ができるようになる。

授業展開と内容

第1回　マスカーニ『カヴァレリアルスティカーナ』間奏曲の指揮と研究。

第2回　マスカーニ『カヴァレリアルスティカーナ』間奏曲の指揮と実践。
オペラの内容を理解して分析する。

第3回　マスカーニ『カヴァレリアルスティカーナ』間奏曲の指揮のテクニックを研究し、お互いで話し合う。

第4回　ベートーヴェン交響曲第1番の1楽章の指揮と研究。

第5回　ベートーヴェン交響曲第1番の1楽章の指揮の実践と分析。
ソナタ形式の分析。

第6回　ベートーヴェン交響曲第1番の2楽章の指揮と応用。

第7回　ベートーヴェン交響曲第1番の3楽章と4楽章の指揮と応用。

第8回　A.Reed アルメニアンダンスpart１の指揮と研究。

第9回　A.Reed アルメニアンダンスpart１の指揮と分析。
指揮によるテンポの変化を習得する。

第10回　A.Reed アルメニアンダンスpart１の変拍子の練習。

第11回　A.Reed アルメニアンダンスpart１の指揮をし合いディスカッションしてみる。

第12回　ヴェルディ『運命の力』序曲の指揮と研究。

第13回　ヴェルディ『運命の力』序曲の指揮と実践。
オペラの中に出てくるテーマを研究する。

第14回　ヴェルディ『運命の力』序曲の指揮と実践。
お互いの指揮を見ながらディスカッションしてみる。

第15回　ヴェルディ『運命の力』序曲の指揮と実践。
各自の指揮テクニックの問題点の改善。

第16回　ヨハン・シュトラウス『こうもり』序曲の指揮と研究。
オペレッタの内容を理解する。

第17回　ヨハン・シュトラウス『こうもり』序曲の指揮と実践。

第18回　ヨハン・シュトラウス『こうもり』序曲の指揮とワルツの指揮の研究。

第19回　ヨハン・シュトラウス『こうもり』序曲の指揮と実践。
ワルツの指揮法の応用。

第20回　グレンジャー『リンカンシャーの花束』の指揮と研究。

第21回　グレンジャー『リンカンシャーの花束』の指揮と研究。
変拍子の練習。

第22回　グレンジャー『リンカンシャーの花束』の指揮と実践。
原曲となるイギリス民謡を研究する。

第23回　グレンジャー『リンカンシャーの花束』の指揮と実践。
お互いの指揮を見ながらディスカッションしてみる。

第24回　オペラのアリアや協奏曲等の指揮と研究。

第25回	オペラのアリアや協奏曲等の指揮の実践。
第26回	オペラのアリアや協奏曲等のソリストと合わせて指揮者のやるべきことを理解する。
第27回	ベートーヴェン交響曲第５番「運命」1楽章の指揮と研究。
第28回	ベートーヴェン交響曲第５番「運命」1楽章の指揮と実践。
第29回	ベートーヴェン交響曲第５番「運命」2楽章以降の指揮と実践。
第30回	ベートーヴェン交響曲第５番「運命」1楽章を指揮し本番のシュミレーションをしてみる。

履修上の注意

特に無し。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で課題を指揮することで、各個人の技術の問題点を解明し、その改善方法を提示していく。
その修得には、学生個人が指揮をするための準備や復習が最も重要になる。

教科書・参考書

オーケストラ曲、吹奏楽曲などを教材として配付又は準備する。

科目名－クラス名

指揮法Ⅱ②

曜日時限

金 2時限

担当教員

時任　康文

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	4～	通年	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

指揮をするという行為から音楽を学び、楽譜の理解を深め、幅広い視野を持つ音楽家、素晴らしい音楽指導者の育成を目標とする。
２年目前期は２台のピアノを指揮しながら、オーケストラ曲や吹奏楽曲も含め指揮の実践を研究する。
後期はオペラや協奏曲なども取り入れ、小編成のアンサンブルも指揮しながら現場での指揮の実践を学ぶ。

学修成果

履修者は、音楽を深く理解し、音楽を導く指揮ができるようになる。

授業展開と内容

第1回　マスカーニ『カヴァレリアルスティカーナ』間奏曲の指揮と研究。

第2回　マスカーニ『カヴァレリアルスティカーナ』間奏曲の指揮と実践。
オペラの内容を理解して分析する。

第3回　マスカーニ『カヴァレリアルスティカーナ』間奏曲の指揮のテクニックを研究し、お互いで話し合う。

第4回　ベートーヴェン交響曲第1番の1楽章の指揮と研究。

第5回　ベートーヴェン交響曲第1番の1楽章の指揮の実践と分析。
ソナタ形式の分析。

第6回　ベートーヴェン交響曲第1番の2楽章の指揮と応用。

第7回　ベートーヴェン交響曲第1番の3楽章と4楽章の指揮と応用。

第8回　A.Reed アルメニアンダンスpart１の指揮と研究。

第9回　A.Reed アルメニアンダンスpart１の指揮と分析。
指揮によるテンポの変化を習得する。

第10回　A.Reed アルメニアンダンスpart１の変拍子の練習。

第11回　A.Reed アルメニアンダンスpart１の指揮をし合いディスカッションしてみる。

第12回　ヴェルディ『運命の力』序曲の指揮と研究。

第13回　ヴェルディ『運命の力』序曲の指揮と実践。
オペラの中に出てくるテーマを研究する。

第14回　ヴェルディ『運命の力』序曲の指揮と実践。
お互いの指揮を見ながらディスカッションしてみる。

第15回　ヴェルディ『運命の力』序曲の指揮と実践。
各自の指揮テクニックの問題点の改善。

第16回　ヨハン・シュトラウス『こうもり』序曲の指揮と研究。
オペレッタの内容を理解する。

第17回　ヨハン・シュトラウス『こうもり』序曲の指揮と実践。

第18回　ヨハン・シュトラウス『こうもり』序曲の指揮とワルツの指揮の研究。

第19回　ヨハン・シュトラウス『こうもり』序曲の指揮と実践。
ワルツの指揮法の応用。

第20回　グレンジャー『リンカンシャーの花束』の指揮と研究。

第21回　グレンジャー『リンカンシャーの花束』の指揮と研究。
変拍子の練習。

第22回　グレンジャー『リンカンシャーの花束』の指揮と実践。
原曲となるイギリス民謡を研究する。

第23回　グレンジャー『リンカンシャーの花束』の指揮と実践。
お互いの指揮を見ながらディスカッションしてみる。

第24回　オペラのアリアや協奏曲等の指揮と研究。

第25回	オペラのアリアや協奏曲等の指揮の実践。
第26回	オペラのアリアや協奏曲等のソリストと合わせて指揮者のやるべきことを理解する。
第27回	ベートーヴェン交響曲第５番「運命」1楽章の指揮と研究。
第28回	ベートーヴェン交響曲第５番「運命」1楽章の指揮と実践。
第29回	ベートーヴェン交響曲第５番「運命」2楽章以降の指揮と実践。
第30回	ベートーヴェン交響曲第５番「運命」1楽章を指揮し本番のシュミレーションをしてみる。

履修上の注意

特に無し。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で課題を指揮することで、各個人の技術の問題点を解明し、その改善方法を提示していく。
その修得には、学生個人が指揮をするための準備や復習が最も重要になる。

教科書・参考書

オーケストラ曲、吹奏楽曲などを教材として配付又は準備する。

科目名－クラス名

指揮

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

週１回のレッスン（６０分）のレッスンに於いて、指揮技術と楽譜を読む知識を学修する。

学修成果

音楽記号が明解になり、作曲者の意図することが指揮で表せるようになる。

授業展開と内容

第1回　ノン・エスプレッシーヴォ打法の運動と図形（４つ振り）
＊右腕の基礎的訓練
・右腕の役割
・手くびの運動（手首の上下、左右運動）
・腕全体の使用
・基本的運動の図形の学修をする。

第2回　＊ノン・エスプレッシーヴォ打法の体得
・ノン・エスプレッシーヴォ打法でテンポの維持を学修する。
・tempoとritmoの予備拍の運動を学修する。

第3回　スタッカート打法の運動と図形（４つ振り）
＊軽いスタッカート打法と強いスタッカート打法
・手くびの反動の運動を学修する。
・予備拍の運動を学修する。

第4回　エスプレッシーヴォ＝レガート打法とその図形（４つ振り）
＊基本型と応用
・運動の型と図形のヴァリアントを学修する。
・予備拍の運動を学修する。

第5回　アウフタクトの振り方（４つ振り）
＊第４、第３、第２拍からの出
・予備拍の運動の問題点を学修する。
・各表情に於ける図形を学修する

第6回　＊今までの学修したことを応用し、３つ振り、２つ振りを学修する。

第7回　＊ディナミークと表情の急速な転換
・Pからfへ・ｆからPへ・他を学修する

第8回　＊クレッシェンドとディクレッシェンド
・図形の変化を学修する。
・左手の使用を学修する。

第9回　＊アインザッツ
・曲を使ってアインザッツの仕方を学修する。（曲目は担当教員が指示する）

第10回　＊マルカート打法の運動と図形
・直線型マルカート打法と曲線型マルカート打法を学修する。

第11回　＊アウフタクトからの開始
・基準音符以下の音符から出る曲の場合に於ける指揮法を学修する。

第12回　＊分割法
・曲が遅くなっていく時に必要となる、基準音符を分割する指揮法を学修する。

第13回　パウゼ（Pause）
＊パウゼの指揮
・切り・数取り・予備を学修する。
＊曲頭と曲尾のパウゼ
・パウゼからの振り方・パウゼを振るテクニック・曲尾切りを学修する。

第14回　アゴーギク（Agogik）
＊リタルダンドとアッチェレランド
・指揮法上の原則を学修する。
・アゴーギクに伴う惰性の処理を学修する。

第15回　フェルマータ（Fermata）
＊曲中のフェルマータと曲尾のフェルマータ
・ｆのばあいとPのばあい・パウゼにかかるフェルマータ他を学修する。

第16回　モーツアルトの作曲した曲を指揮する（曲目は担当教員が指示する。序曲又は小品）
＊作曲家の人間像、当時の社会現象を考察し、音楽の特色を学修する。

第17回　＊指揮をしながら音楽記号を学修し、その曲の全体像を学修する。

第18回　＊記号とフレージングの関係を学修する。

第19回　＊左手の動きの学修
・特にディナミークに注意し、クレッシェンドとディミヌエンド記号に対しての左手の動きを学修する。
・アインザッツが明快にできるよう学修する。

第20回　・アゴーギクが自然に流れるようになるよう学修する。

第21回　全体を指揮しながら音楽をまとめる学修をする。

第22回　前回のレッスンで注意されたことを、出来るまで学修する

第23回　暗譜で振る
・指揮者にとって暗譜は何故必要かを学修する。

第24回　音楽をまとめ、暗譜で指揮をする。

第25回　ベートーヴェン交響曲第１番を学修する
＊作曲家の人間像、当時の社会現象を考察し音楽の特色を学修する、

第26回　＊第1楽章
・記号とフレージングの関係を学修する。

第27回　・ブレスで表現を深めることを学修する。

第28回　＊第2楽章
・記号とフレージングの関係を学修する。
・記号で表そうとする背景を考察し、ブレスで表現を深めることを学修する。

第29回　＊第3楽章
・記号とフレージングの関係を学修する。
・記号で表そうとする背景を考察し、ブレスで表現を深めることを学修する。

第30回　＊第4楽章
・記号とフレージングの関係を学修する。
・記号で表そうとする背景を考察し、ブレスで表現を深めることを学修する。

履修上の注意

予習・復習をしっかりすること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・オーケストラの授業を見学できるので、出来るだけ参加すること。
・コンサートには行くように努力し、生の演奏に触れるようにすること。
・取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

その都度担当教員が指示をする。

科目名－クラス名

指揮　A

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

週１回のレッスン（６０分）のレッスンに於いて、指揮技術と楽譜を読む知識を学修する。

学修成果

音楽記号が明解になり、作曲者の意図することが指揮で表せるようになる。

授業展開と内容

第1回　ノン・エスプレッシーヴォ打法の運動と図形（４つ振り）
＊右腕の基礎的訓練
・右腕の役割
・手くびの運動（手首の上下、左右運動）
・腕全体の使用
・基本的運動の図形の学修をする。

第2回　＊ノン・エスプレッシーヴォ打法の体得
・ノン・エスプレッシーヴォ打法でテンポの維持を学修する。
・tempoとritmoの予備拍の運動を学修する。

第3回　スタッカート打法の運動と図形（４つ振り）
＊軽いスタッカート打法と強いスタッカート打法
・手くびの反動の運動を学修する。
・予備拍の運動を学修する。

第4回　エスプレッシーヴォ＝レガート打法とその図形（４つ振り）
＊基本型と応用
・運動の型と図形のヴァリアントを学修する。
・予備拍の運動を学修する。

第5回　アウフタクトの振り方（４つ振り）
＊第４、第３、第２拍からの出
・予備拍の運動の問題点を学修する。
・各表情に於ける図形を学修する

第6回　＊今までの学修したことを応用し、３つ振り、２つ振りを学修する。

第7回　＊ディナミークと表情の急速な転換
・Pからfへ・ｆからPへ・他を学修する

第8回　＊クレッシェンドとディクレッシェンド
・図形の変化を学修する。
・左手の使用を学修する。

第9回　＊アインザッツ
・曲を使ってアインザッツの仕方を学修する。（曲目は担当教員が指示する）

第10回　＊マルカート打法の運動と図形
・直線型マルカート打法と曲線型マルカート打法を学修する。

第11回　＊アウフタクトからの開始
・基準音符以下の音符から出る曲の場合に於ける指揮法を学修する。

第12回　＊分割法
・曲が遅くなっていく時に必要となる、基準音符を分割する指揮法を学修する。

第13回　パウゼ（Pause）
＊パウゼの指揮
・切り・数取り・予備を学修する。
＊曲頭と曲尾のパウゼ
・パウゼからの振り方・パウゼを振るテクニック・曲尾切りを学修する。

第14回　アゴーギク（Agogik）
＊リタルダンドとアッチェレランド
・指揮法上の原則を学修する。
・アゴーギクに伴う惰性の処理を学修する。

第15回　フェルマータ（Fermata）
＊曲中のフェルマータと曲尾のフェルマータ
・ｆのばあいとPのばあい・パウゼにかかるフェルマータ他を学修する。

第16回　モーツアルトの作曲した曲を指揮する（曲目は担当教員が指示する。序曲又は小品）
＊作曲家の人間像、当時の社会現象を考察し、音楽の特色を学修する。

第17回　＊指揮をしながら音楽記号を学修し、その曲の全体像を学修する。

第18回　＊記号とフレージングの関係を学修する。

第19回　＊左手の動きの学修
・特にディナミークに注意し、クレッシェンドとディミヌエンド記号に対しての左手の動きを学修する。
・アインザッツが明快にできるよう学修する。

第20回　・アゴーギクが自然に流れるようになるよう学修する。

第21回　全体を指揮しながら音楽をまとめる学修をする。

第22回　前回のレッスンで注意されたことを、出来るまで学修する

第23回　暗譜で振る
・指揮者にとって暗譜は何故必要かを学修する。

第24回　音楽をまとめ、暗譜で指揮をする。

第25回　ベートーヴェン交響曲第１番を学修する
＊作曲家の人間像、当時の社会現象を考察し音楽の特色を学修する、

第26回　＊第1楽章
・記号とフレージングの関係を学修する。

第27回　・ブレスで表現を深めることを学修する。

第28回　＊第2楽章
・記号とフレージングの関係を学修する。
・記号で表そうとする背景を考察し、ブレスで表現を深めることを学修する。

第29回　＊第3楽章
・記号とフレージングの関係を学修する。
・記号で表そうとする背景を考察し、ブレスで表現を深めることを学修する。

第30回　＊第4楽章
・記号とフレージングの関係を学修する。
・記号で表そうとする背景を考察し、ブレスで表現を深めることを学修する。

履修上の注意

予習・復習をしっかりすること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・オーケストラの授業を見学できるので、出来るだけ参加すること。
・コンサートには行くように努力し、生の演奏に触れるようにすること。
・取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

その都度担当教員が指示をする。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3361　教員名：時任　康文

１）評価結果に対する所見

評価としては学生の皆さんに誤解無く授業の趣旨が伝わり理解されていると思います。ただ７名の履修学生のうち、３名のアンケート提出という結果は残念。４名の学生の意見も聞いてみたかった。提出しない理由は各自それぞれかと思いますが皆さんの意見を聞いてみることが大切なので、できるだけ提出を促すように努めたい。

２）要望への対応・改善方策

アンケート提出を授業内でできるだけ促し、学生にこのアンケートの大切さを伝えていくべきだと思います。

３）今後の課題

学生は毎年変わります。その時その時の学生に合わせた授業の進め方を考えなければならず、それには学生の本音を掴まないと進められない。今回の結果に満足すること無く、更に学生のためになる良い授業を行っていきたい。

以　上